



愛宕神社の火揚げ(朝日谷)



朝日谷の年中行事の一つで、8月15日の夜に行われる。かつては20m近い竿に籠をつけて行っていたが、現在ははや簡素化し、高い柱の先にワラを詰めたジョウゴ形の竹籠を結わえて建て、たいまつを投げ上げて火をつける。



春日神社(山戸)



アマテラス大神のほか、アマテラス率いる天孫族の武将であるタケミカヅチ命・フツヌシ命・アマノコヤネ命の三神が祀られている。また、境内には八幡神社・稻荷神社・金刀比羅神社も祀られている。



吉備神社の石棺橋



もとは吉備神社の南約50mのところに、用水路の橋として家形石棺の蓋石が架けてあった。形が似ているところから、硯橋とよばれていた。現在は境内に保存されている。



京見山



標高216m。尾根道が整い、自然を観察しながら才や太子町原方面まで縦走することができる。古墳が数多く築かれ、また、江戸時代中期～大正期には、大坂(阪)堂島の米相場を中継する「旗振り通信」も行われたといわれている。



西宝寺



欣願(幼名は西道)により開基。西道は若くして本山の教如上人に仕えた。正親町上皇に拝謁したとき、院に仕えるよう言われたが、仏門から去りがたい旨と一向宗の神髓を説いたところ、権大僧都に任じられ、西宝寺の勅号を賜った。



下太田廃寺の薬師堂



薬師堂は昭和10年代に改築されたもので、付近は講堂に比定されている。旧薬師堂は棟札によって万延元年(1860)に建てられたことがわかる。武者絵図の絵馬や明治の礼拝姿を描いた小絵馬などが掲げられている。



瓢塚古墳



墳長約104mの前方後円墳で、墳丘は2段築成で葺石(ふきいし)が認められる。前方部は細くバチ形に延び、最古級の古墳であることを示している。かつて後円部の南に片寄った所で竪穴式石槨が見られた。国指定史跡。



夫婦地蔵



舟形に整形された石に地蔵像2体が刻まれ、室町時代末期の作と考えられている。1体は錫杖(しゃくじょう)と宝珠をもち、もう1体は合掌している。子どもを授けたい人にご利益があるといわれている。



丁・柳ヶ瀬遺跡



大津茂川と西汐入川に挟まれた微高地や自然堤防上に広がる複合遺跡。縄文式土器、弥生式土器、住居跡(古墳時代前期)、奈良時代の墨書土器(「大伴」「棕垣」などの墨書銘がある)、石器、木製品などが発掘されている。



丁古墳公園(丁古墳群)



京見山から西に延びる二本の尾根上と谷内に、かつて100基余りの古墳が存在していたが、そのほとんどが消滅した。そのうち5基の古墳が「丁古墳公園」として保存され、石室内の家形石棺を観察できるものもある。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の意義

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧

42 よ べ 余部地区

別紙MAP
B-7



円通寺

もとは天台宗だったが、蓮如上人の教化により浄土真宗となり、現在の御津町中島に移り念仏の道場として栄えた。その後、今の地に移る。本堂北にある庭石の上の喚鐘には享保9年(1724)とあり、寄進の由来が印刻されている。



徳源寺

徳道上人が建立した徳道寺という真言宗の寺院であったと伝わる。後に、応仁の乱に敗れた源元明という武士が徳道寺に入り、源明と号し、空善(蓮如上人の高弟)に会って浄土真宗に改宗し、徳源寺とした。



教蓮寺

浄土真宗本願寺派の寺院で、開基は天文17年(1548)。顕如が蟠洞川西方の蓮池を民衆とともに埋め立て、堂宇を建立し教蓮寺と称したとされている。鐘堂についての記録はないが、すでに百数十年が経過していると思われる。



二神社

祭神はイザナギ命・イザナミ命・タヂカラオ命。境内には大將軍神社と太古宮を祀る。「奉納 さし石 佐兵衛」と彫られた力石が保存されている。



三神社

寛徳元年(1044)創建の伝承が残る。祭神はアマノコヤネ命・タケミナカタ命・ヤサカイリヒメ命の三神。江戸時代は諏訪神社と呼ばれていたが、明治になり改称したと考えられる。境内には山王社、荒神社などが祀られている。



室津道の八枚橋

下余部と津市場出口の余子浜川に架かる橋で、室津道の通過点と考えられている。かつて、のべ石8枚が架かり、余子浜から余部に通う唯一の道だった。現在はその上をコンクリート舗装し、余子浜線77号の市道になっている。



千本松跡

元禄年間(1688～1704)に、岩村源兵衛が水害を防ぐために揖保川堤防に松980本を植えたのが始まり。その後、堤防は決壊することがなくなり、村人に義民として称えられた。今は平成に植樹された数本が見られるのみ。



室津道の八十の渡し

室津道の通過点と考えられている。下河原から中州、中川を経て御津町中島に上がったと考えられる。



徳栄寺

浄土真宗本願寺派。「播磨国末寺帳」に、寛永3年(1626)玄益が創立、元禄11年恵教の時代に寺号と木仏免許を受けたとある。棟札から本堂が天明7年(1787)に再建されたことがわかる。黒田官兵衛ともゆかりがあるといわれる。



八木家住宅

八木家は丸亀藩綱干組大庄屋を勤めた。海鼠壁の長屋門が見事。かつて東から北面の道路は水路で、裏門の北には船着場があったといわれている。長屋門の西にはクスノキの巨木があり、保存樹に指定されている。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の意義

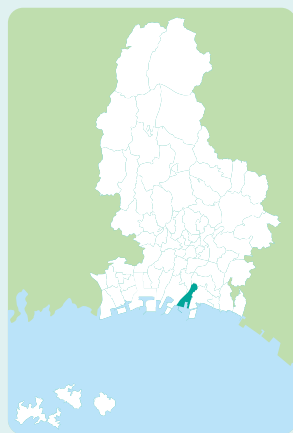
3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧

43 めが 妻鹿地区

別紙MAP
E-7・8



0m 500m 1km

- | | |
|------------------|------------|
| 遺跡・史跡、
歴史上の名所 | 伝統芸能
など |
| 神社・仏閣、
歴史的建造物 | 景勝 |
| 歴史上の
人物など | 生物・花 |
| 祭り
伝統行事 | 町並み |
| 美術品 | etc その他 |

海岸線の護岸石垣



江戸中期ころから幕末にかけて次第に新田開発が進み農業も進展した。しかし、昭和35年に出水興産が製油所の建設を開始し、妻鹿沖の埋め立て工事が始まった。今は新田南端にあたる堤防の石垣の一部が昔の面影を残すのみである。



金比羅



お社はなく、参献灯とある文化6年(1809)の常夜灯を祀り、海上の安全を祈願した。妻鹿漁港の「目印」となった。



教念寺仏足石



天文3年(1534)創建、道宗の開基で、亀山本徳寺の末寺。貞享3年(1686)の梵鐘、昭和4年の銘がある仏足石がある。仏足石は足の長さ65cm、両足に輪相などを施刻した本格的なもの。



妻鹿漁港跡



河川漁港。村内を市川の支流(住吉川、前川、東川ともいう)が流れ、現在の東海町が漁港であった。漁港は昭和57年に埋め立てが完了し、白浜町の地先に移ったが、名称は妻鹿漁港としている。



黒田職隆公廟所



地元で「チクゼンさん」と呼ばれている凝灰岩製の五輪塔。天明4年(1874)福岡藩黒田家により築造。昭和52年妻鹿自治会が霊屋を改築。正面に「満誉宗圓大禅定門 天正十三酉八月廿二日」の銘があり、黒田官兵衛の父職隆の墓塔。



元宮八幡神社



妻鹿の氏神。祭神は応神天皇。宮山の御旅山八幡神社がいつの頃から山下に遷され、山上に引移るまで御旅山八幡神社の元宮であったとされる。昭和54年修復。玉垣などに三十八銀行妻鹿支店や力士のしこ名が見られる。



国府山城跡



標高98mの甲山(荒神山、功山)にあり、別称に袴垂城・功山城など。天正8年(1580)羽柴秀吉に姫路城を渡した黒田官兵衛孝高は父職隆とともに移り住んだ。山麓の「妻鹿城址」の碑は昭和45年建立。



役場跡(現自治会館)



妻鹿は明治22年4月市制町村制施行により飾東郡妻鹿村となり、役場が置かれた。昭和2年の飾磨郡妻鹿町役場など、その後も幾度か名称変更。現在は妻鹿自治会館となり、内部は一部昔の面影を残す。



固寧倉(妻鹿)



文化6年(1809)の社倉法によって作られた義倉の一種。米、麦などを蓄えて不時の災害に備えた。入り妻造りの土蔵で「固寧倉」の扁額がかけられている。弘化3年(1846)には姫路藩内に288ヶ所設置された。



屋台蔵(妻鹿)



旧屋台蔵(明治28年建築)を平成23年に建替えた。蔵組み造りで屋根の瓦は本葺き、軒は漆喰仕上げ。俱釣の人物像が鯛を釣った鬼瓦、後ろの鏡(神)の鬼瓦などは旧屋台蔵を模している。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の意義

3 地域夢プランのとりえ
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



石手神社

宇佐崎地区東部にある石手神社は、四国八十八霊場の名利、伊予国(愛媛県)松山の石手寺にちなみ名づけたものと言われる。祭神は孝霊天皇第三皇子(伊予皇子)。地元では、この石手神社を権現さんと呼び親しんできた。



西地藏堂

所在は白浜町甲(旧松原村大西ノ丁)の西端、三又路の南角に所在する。地区内に地藏堂を有するので講の名称を地藏講という。1月23日は初地藏、8月23日は地藏盆。昭和30年頃は夜店が並び、踊りなど賑やかだった。



大年神社

天照大神の弟君といわれる素戔鳴尊をお祭りしており、命が、新羅から船材を持ち帰ったことから、植林の神様である。また、神鶴が五穀の種を運んできたことから、農業の神様でもある。



蛭子神社

木場港の西岸にある蓮菜山に鎮座する神社で恵美酒神社ともいう。創始は、天平宝字7年(763)といわれている。戦後、社殿が荒廃したが、宇佐崎の有志の永年の努力が実を結び、昭和59年に立派な社殿が完成。



固寧倉(中村)

江戸末期、飢饉のときの貧民救済に備えて穀物を貯えた倉庫。今では、中村、妻鹿、東山、野里、刀出などに残る。固寧倉とは《民は惟れ邦の本 本固ければ邦寧し》という書経の語から儒学者林述斎が選んで名づけた。



松原山八正寺

所在は白浜町甲(旧松原村東ノ丁)。神亀元年(724)に行基菩薩により開設。現在の八正寺は真言宗の普通の仏教寺院だが明治維新直後の神仏分離までは、松原八幡宮や社領の維持管理と祭礼行事が最も重要な任事であった。



桜太刀自神社

所在は白浜町甲 1849 番地(旧松原村古西ノ丁)。祭神は木花咲耶媛命。祭神は子授け、安産の神様として昔から広く知られる。戦前、昭和17、18年頃までは灘中学校体育館の西側の山腹にあったが、現在地に移設された。



松原八幡宮(御旅山)

妻鹿の漁師久津理が松原八幡宮の御神体となる霊木を海中で発見し、松原の社殿ができるまで御神体を安置した仮殿であった。その後、御旅山麓の元宮八幡神社に遷されたが元禄7年(1694)に山上の現在地に社殿を再建したと伝わる。



中村史料館

中村には古くから膨大な古文書、祭り用具、鬼会式用具などがあり、これらの保管場所に史料館を建設した。鉄筋コンクリート造り3階建て1階は村事務所、2階は祭り用具や鬼会式用具収納、3階は展示場となっている。



松原八幡神社

所在は白浜町甲(旧松原村東ノ丁)。祭神は品陀和気命(應神天皇)・息長足姫命(神功皇后)・比咩大神の三神。毎年10月14日・15日の秋季例祭は「灘のけんか祭り」とも呼ばれ、旧灘7カ村の氏子が豪華な屋台を練り競う力強い祭りである。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の意義

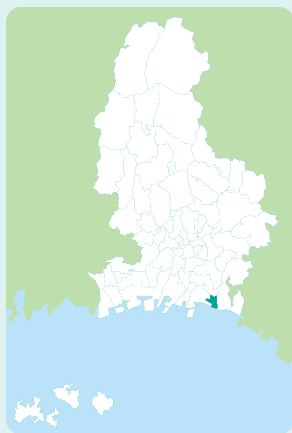
3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧

45 やぎ 八木地区

別紙MAP
E-8、F-8



-  遺跡・史跡、歴史上の名所
-  神社・仏閣、歴史的建造物
-  歴史上の人物など
-  祭り 伝統行事
-  美術品
-  伝統芸能など
-  景勝
-  生物・花
-  町並み
-  etc その他

岩神社

本殿の後ろに高さ4m程の岩がある。宝暦10年(1760)の「宇佐崎組 寺社明細帳」に、社名は「岩神」。社地「堂なし岩ばかり」と記され、岩がご神体であった。明治9年本殿を創建。明治12年「神社明細帳」に社名は岩神社とある。



慶徳寺

浄土真宗本願寺派。永禄3年(1560)梶原行部太夫により開基し、寛永7年(1630)寺号を公称。はじめは村の西外れの八家川沿いにあったが、寺地狭隘のため現在地に移転。移転年代は不明。慶応2年(1866)に本堂再建。



岩大神社

明治12年の「神社明細帳」に祭神大物主命とあり、昭和9年の「村勢一斑」に創建が永享4年(1432)とあるが定かでない。本殿内の神像に宝永6年(1709)の墨書がある。当初、屋台蔵の北側山裾に鎮座。大正末期に現在地に遷座。



西念寺

浄土真宗本願寺派臨江山西念寺。「飾磨郡誌」に天正8年(1580)の開基、延宝3年(1675)木仏を申し受け寺号を公称。宝暦12年(1762)、大正4年と二度再建。樹齢約600年のビャクシンの古木がある(市保存樹)。



大歳神社(八木)

素戔鳴尊・奇稻田姫命を祀る。神社の創建は不明であるが、神像の台座に宝永6年(1709)再興と墨書されている。大歳神社の屋根には、出雲大社系の神社である鯉木が3本、女神を祀る証として千木が大地に平行に削られている。



正福寺

浄土真宗本願寺派清流山正福寺という。享禄4年(1531)摂州生玉庄大坂北町で開基。元和元年(1615)大坂夏の陣で焼き出され、木庭山麓に堂を建立したのが木場正福寺のはじまり。西の町に移り清水の道場と呼ばれていたが、その後、現在地に移転。



木庭神社

十神を祀る特異な神社である。寛永16年(1639)木庭(場)村の長者三木宗榮が創建「姫御前宮木庭大明神」と称した。寛保元年(1741)三木宗榮から四代目の孫、三木寸斗魚泰によって木庭山上に、ほぼ現状の姿で再興された。



袖もぎ地蔵

木場から福泊への峠道に小堂がある。内部に東向きに安置された石棺仏を袖もぎ地蔵という。家型石棺蓋石に地蔵立像が陽刻され、この地蔵の前で転んだ者は厄払いのため、着物の袖を供えなければ凶事があると伝承されている。



木庭山古墳

木庭山古墳は盛り土が流されているが円墳形式である。平成19年の学術調査により、1号墳は7世紀第2四半期、2号墳は6世紀第4四半期の築造という。誰を葬ったか不明。立地条件から海に関わりのある人物であろう。



波切不動明王

小赤壁に鎮座する波切不動明王は、昭和12年に建立された。波切りとは、波を静めることであり、波切不動明王とは波を静める呪力をもった不動明王である。船乗りの多かった大木庭の人達が海上安全を祈って建立した。



1 地域夢プランの歩み
はじまりからこれまで

2 地域夢プランのかたち
「取組の類型化」

3 地域夢プランのとりえ
「検証と未来へのアプローチ」
(1) 「姫路市地域夢プラン」の意義

3 地域夢プランのとりえ
「検証と未来へのアプローチ」
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
「地区からの情報発信」
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
「地区からの情報発信」
(2) 地域資源一覧



大年神社(兼田)



この社はもと北の山頂にあったものを、現在の地に遷したものだ。明治初年に御神体の下調べをした際、観世音の木像が出てきたので、これを明徳寺に納め、新たに他所から神鏡を勧請して御神体とした。現在は兼田の氏神として祀る。



仁寿山校跡



姫路藩家老として財政の再建に多くの功績を残した河合寸翁が文政4年(1821)に設立した私立の学問所が仁寿山校。仁寿山校は身分や旧習にとられない教育を目的とし、人材を育てた。今は山校跡には井戸と土塀跡を残すのみ。



大歳神社(東山)



天正の頃に建立され、明暦3年(1657)に再興、寛政2年(1791)本殿復興造営、昭和5年本殿基壇造営、昭和6年拝殿上棟された。近年傷みが激しく、平成17年に改築工事が実施された。



住吉神社(継)



以前は麻生八幡社の末社で祭神は「上筒男神、中筒男神、下筒男神」の3神で、元来、海路の守り神。後ろの山は船橋山という。創建の由緒など詳しいことは明らかではないが、現在は毎年6月下旬の湯立て祭りだけになっている。



兼田地蔵



兼田バス停のすぐ東側にあり、くりぬき石棺の棺身に、地蔵尊像が刻まれ、お堂の中に安置されている。銘文に「貞治4年(1365)8月24日」とある。



東山焼窯跡



姫路焼、興禅寺焼ともいわれ、文政5年(1822)興禅寺東の山麓に窯を築き、有田系の磁方で、染付や青磁の徳利や皿・鉢などを焼いた。現在、窯跡は、畑に整地され、作業場の井戸跡と窯跡を示す標柱が建てられている。



河合家墓所



河合寸翁は姫路藩家老として藩財政の再建に多くの功績を残している。姫路産木綿の江戸専売や新田開発、固寧倉の設置などがその成果としてよく知られている。後に、この墓所が河合家一族の墓所となり「河合家墓所」と呼ばれる。



藤井の井戸



東山集落の地下水の水質は極度に悪かったため、集落の東にある向山先端部の岩盤から湧き出る清水に目をつけ、ここに村民共有の「藤井の井戸」を構築して昭和30年頃までに飲料水として利用した。



etc

固寧倉(東山)



東山固寧倉は、間口2.5間、奥行5.5間の妻入り前庇付き建物で、内部は二間に仕切られている。北面中央には片引き戸、西面には開き戸の出入口を設けている。扁額裏の墨書銘から天保14年(1843)に建てられた。



屋台蔵(東山)



間口は約5m(2.8間)、奥行は約9m(5間)、棟高は約6m。妻入り、観音開きの扉(昭和13年10月修繕、神戸・橋詰辨二郎)には筋鉄饅頭金具が付けられている。昭和51年改築。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

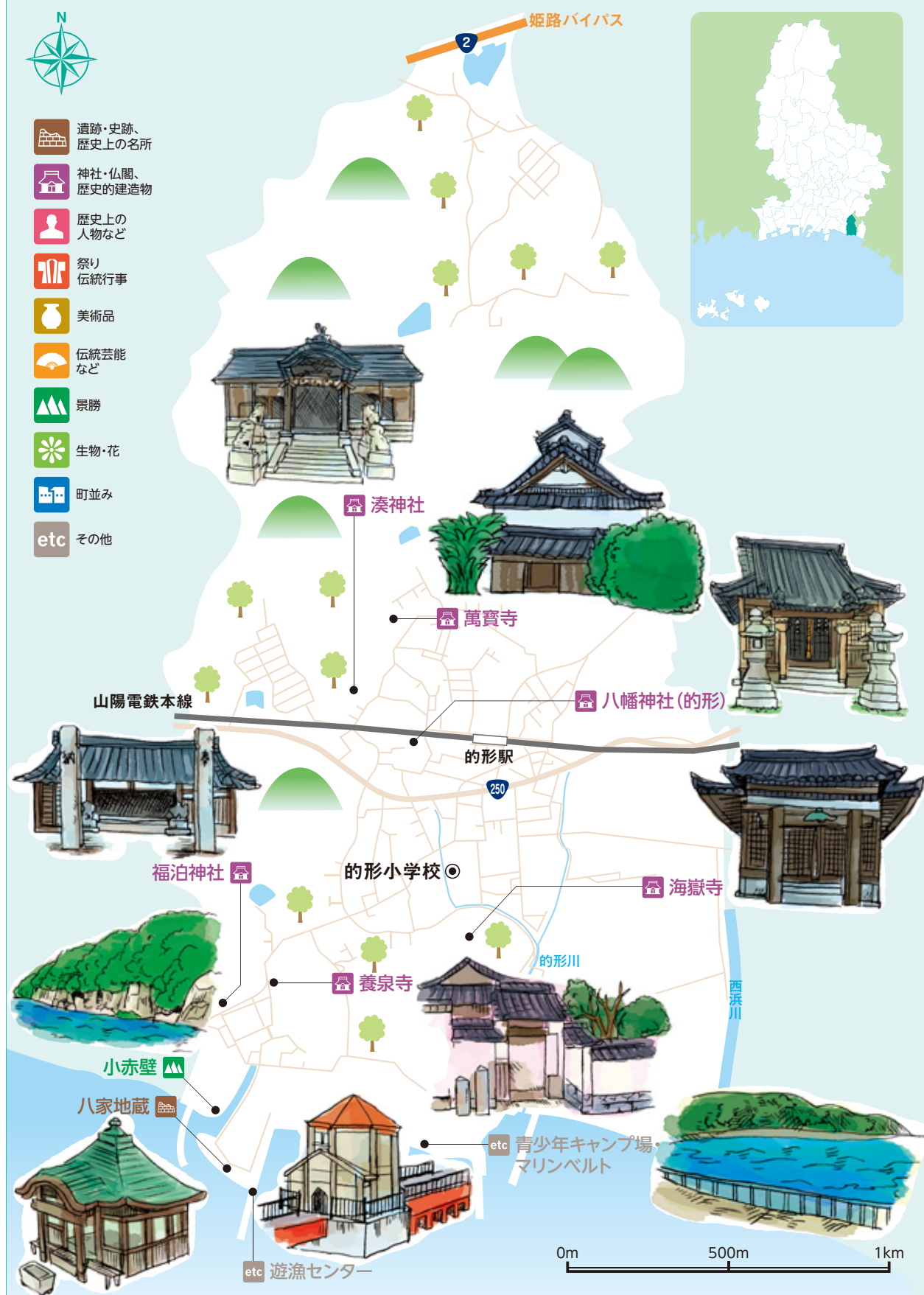
2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の意義

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



海嶽寺

的形町内の寺院では最古、天平年間、僧・行基の開基と伝わる。中世に紀州・無及禅師が中興し、江戸時代に現在地に再興される。長い石段の上に鐘楼門がある。



萬寶寺

境内に元禄時代に造られた庭がある。中央の築山には高さ117cmの立石があり、この庭の守護石になっている。また、心字池には石橋が2か所あり、その上部にも築山がある。三尊石を中心とした古代の石組みが見られる。



小赤壁

木庭山、姫御前山、燈籠地山の南側は、海に面して崖をなし、奇石巨岩が至る所に姿を見せ、絶景の自然美をもつ景勝地である。江戸時代、中国の赤壁に似ているということから頼山陽が「小赤壁」と命名した。



湊神社

広い境内をもち、神殿、拝殿は山麓の小高い地にあり、その石段の坂道に万葉集の歌碑が立っている。毎年、10月13日・14日の秋祭りの豪華絢爛な屋台の練合せや神事などは見る人々を魅了する。



青少年キャンプ場・マリンベルト etc

白浜と並ぶ海水浴場であり、夏は海水浴やキャンプとして市民に広く利用されている。特に夏は山の緑を背景に、まばゆい太陽のもとで青い海的美しさが一層引き立つ。



八家地蔵

高さ1.9m、花崗岩製の精巧な造りで鎌倉時代の作。「播磨鑑」には多くの参拝者の様子が、また「木庭記」には昔、この像は木場にあったのを、乾元元年(1302)安藤蓮性が福泊港を築いた時に、この地に移したと記される。



八幡神社(的形)

古代、的形の湊と呼ばれる入り江の真ん中の島が境内地。神功皇后の謝儀伝説によって八幡大神が奉祀された。湊神社と密接な関係にあり、お旅所として毎年10月14日の両社秋季例大祭には、盛大な御旅行列が行われる。



遊漁センター etc

遊漁センターは的形町の福泊地先にある。周辺の水深は5~7mで、海底は砂泥質で両側10mで底質改良を行っている。そして独自のヒューム管組み合わせ漁礁を45個設置し、安全で快適な海釣りを楽しむことができる。



福泊神社

室町時代に建てられた神社で石垣が旧飾磨郡と印南郡の境界線であった。平成13年8月に市指定文化財になる。本殿には室町時代の建築技法とか登り竜と下り竜、ひき蛙等珍しい彫刻が見られる。



養泉寺

境内の本堂南側にある五輪塔は花崗岩製で、灯籠地山の山腹に埋れていたのを、江戸末期に掘り起こして移設した。ただし、最下部の基礎(地輪)だけ行方不明で、後世に追加された。本堂裏にも五輪塔がある。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりからこれまで～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(1) 「姫路市地域夢プラン」の意義

3 地域夢プランのとりえ方
～検証と未来へのアプローチ～
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(1) 地区ごとの主な地域資源

4 地域資源の全リスト
～地区からの情報発信～
(2) 地域資源一覧



イヤガ古墳

イヤガ池の岸に沿う小道を入ると御獄神社の社殿と天大忠地蔵を奉った地蔵堂がある。社殿後方に盛土があり、石組が露出している。もと横穴式の円墳であったとみられる。



こしかけ岩

腰掛岩は、大塩の東から日笠山に登る所の「岩神社」にあり、菅原道真公がこの岩に腰をかけたから腰掛岩と呼ばれるようになったという伝承と、輿をこの岩に置いたからという言い伝えがある。



馬坂峠

その昔、馬の首を埋めたという由来がある。ノジギワの時期は最高で、岩と林のトンネルの向こうに見える町の風景も郷愁を誘う。



清勝寺

播磨西国 31 番札所で、開基は菅原道真と伝える。応永 2 年 (1395) に季明禅師が再建、清勝寺と称した。本尊は聖観音菩薩。



大塩天満宮

祭神は菅原道真。都市計画道路大塩曽根線の建設計画に伴い、現在地に移転。10 月 14 日・15 日の秋季例大祭は、8 頭の毛獅子によって道中舞と地舞が演じられる勇壮な獅子舞 (県指定無形民俗文化財) が奉納されることで有名。



千葉村長頌徳碑

穴虫池と大塩のじぎくの里公園の間にあり、表面に「千葉村長頌徳碑」と刻まれている。



大塩のじぎく保存園

大塩サービスセンターの南側にのじぎく保存園があり、毎年 11 月にのじぎく祭りが開催される。また、昔船をつなぎ止めた「もやい石」がある。



日笠山のじぎく園

菅原道真公由来の「岩神社」から登る日笠山の南側斜面にのじぎくの育成地「日笠山のじぎく園」があり、秋 (11 月頃) には斜面一帯がのじぎくの花で真白になる。



梶原家住宅

大塩一の塩田主といわれた梶原家の住宅で、約 2,000 坪 (6,600 m²) の宅地に、1,500 m² 余の建物が建っている。現在の建物は江戸末期以降のもので、市の都市景観重要建築物等に指定されている。



明泉寺

浄土真宗本願寺派の寺院だが、もとは天台宗で大養寺と称し、大乘神社付近にあった。元和元年 (1615) に現地に移り、明泉寺と称す。裏庭に宝篋印塔の残欠 (基礎) があり、「康応元年 (1389)」の銘がある。



1 地域夢プランの歩み
～はじまりから～

2 地域夢プランのかたち
～取組の類型化～

3 地域夢プランのとりえ方
(1) 「姫路市地域夢プラン」の意義
～検証と未来へのアプローチ～

3 地域夢プランのとりえ方
(2) 地域資源を活用したまちづくりと展望
～検証と未来へのアプローチ～

4 地域資源の全リスト
(1) 地区からの情報発信
～地区からの情報発信～

4 地域資源の全リスト
(2) 地域資源一覧
～地区からの情報発信～